

044

## 地域の在留外国人に向けAIアナウンサーによる多言語放送を実現したコミュニティ放送局

取組主体

株式会社横浜マリンエフエム

従業員数

想定災害

実施地域

4人

全般

神奈川県

・横浜市最大級の在留外国人を擁する地域のコミュニティ放送局として、地域の在留外国人向けにAIアナウンサーを活用した多言語での情報伝達を行い、地域の防災メディアとして、防災・防犯情報の共有に貢献。

### 1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

#### AIアナウンサーを活用し地域の在留外国人向けに複数言語で情報を伝達するコミュニティ放送局

- ・横浜市中区のコミュニティ放送局である株式会社横浜マリンエフエムは、防災・防犯情報を中心に、地域の在留外国人向けにAIアナウンサーを活用した多言語での放送を行っている。
- ・多言語での放送では、日本語の文章を即時に複数の外国語に翻訳し、合成音声で放送するサービスを導入している。本サービスは、多言語同時翻訳AIアナウンサー「バーチャル トーキング ヘッド」と呼ばれ、緊急時にもタイムリーに活用できるよう、AIによる機械翻訳と音声合成を活用した原稿読み上げサービスとなっている。本サービスは、同社の技術パートナーである「横浜ベイサイドギターワークス 合同会社」が発案し、同社の意見を採り入れながら開発を主導した。



複数言語での放送の様子

- ・販売代理店（株式会社横浜マリンエフエム、株式会社ミュージックバード）を通じ、広く一般向けに販売を行っている。
- ・マリンエフエムでは、1日に4～6回番組の間で5分間放送される「防災インフォメーション」や、神奈川県警察から提供される防犯情報などで同サービスを活用している。「防災インフォメーション」は、日本語以外にも英語、中国語、韓国語などの外国語での読み上げに利用している。

- ・「バーチャル トーキング ヘッド」は、日本語の原稿を入力し即座に日本語と外国語で原稿を読み上げることが可能なため、生放送中にも対応できる。また、日本語および外国語での読み上げ音声をファイル化することもできるので、番組スケジュールに合わせて、自動番組制御装置（放送スケジュールに従って送信所に送り出す装置）から送るなど、同社では利用ニーズに合わせて柔軟に活用している。本サービスにより、横浜市内で最多数の在留外国人を擁する中区において、臨機応変なアナウンスを多数の外国語で届けることが可能となった。



バーチャル トーキング ヘッドの画面

- ・また、「バーチャル トーキング ヘッド」を導入することで、在局のスタッフだけでも外国語による放送に対応できるようになり、外国語に精通したスタッフの確保に係る手間や人件費の大幅な削減に繋がっている。

#### 開発のきっかけは首都圏で記録的暴風となった2019年の台風15号

- ・「バーチャル トーキング ヘッド」の開発は、2019年に台風15号と19号が立て続けに上陸した際の被災体験がきっかけとなっている。当時は、刻々と変化する状況に対して外国語での情報発信が追いつかないという苦い経験をした。また、外国語で避難所の開設や避難情報を伝えたくても、重なる悪天候などの影響で外国語対応が可能なスタッフを確保できず、ほとんどの情報を日本語でしか伝えることができなかった。結果、横浜市内最大の在留外国人を擁する地域のコミュニティ放送局でありながら、もっとも重要な発災時における外国語対応に脆弱性があることを深く認識するこ

## 国土強靱化

ととなった。

- ・上記の経験をきっかけに、「人員の有無に左右されることなく外国語での放送を実現する」必要性を強く感じ、実際の現場体験から得られた教訓を踏まえた A I アナウンサーの開発が望まれた。

### 2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・「バーチャル トーキング ヘッド」は、同局だけではなく、神奈川県内のコミュニティー放送局（株式会社エフエム相模、かわさき市民放送株式会社）においても、採用・運用されている（2023年2月末時点）。

### 3 現状の課題・今後の展開等

- ・「バーチャル トーキング ヘッド」は翻訳および音声生成に A I を用いているため、機械翻訳の正確性および読み上げ時のイントネーションなど発音の精度は、今後継続的に改善を目指している。
- ・今後は、基本的な機能の改善と合わせて、さまざまな情報サービスとの連携などによる A I アナウンサーとしての利便性向上を目指し、情報提供サービス各社と協議を進めている。

### 4 周囲の声

- ・コミュニティー放送局は、地域の防災メディアとして大切な役目を担っています。外国人市民の方々にも地域の防災情報を発信することは、かねてより実現したい課題でした。「バーチャル トーキング ヘッド」の今後に大いに期待しています。（株式会社エフエムさがみ FM HOT 839/83.9MHz）
- ・川崎市は外国人居住者が多く、弊社では以前から多言語での市政情報や天気情報などの発信に力を入れて参りました。「バーチャル トーキング ヘッド」について特に注目しているのは、災害時など緊急放送での活用の可能性です。激甚化する気象災害や巨大地震などへの対策を考えるにあたり、災害規模により緊急放送が数十時間、数日と長期化することは容易に考えられます。我々は市民に向けて迅速に、かつ、多言語で避難に関する最新情報をお伝えする役割を果たす必要があります。その中でアナウンサーの肉声だけで長時間情報発信をし続けることの難しさも出てきます。肉声をサポートする意味でも、こういったシステムを開発してくださったことには大きな意義があると感じております。（かわさき市民放送株式会社 かわさき FM / 79.1 MHz）

#### 担当者の声

- ・「バーチャル トーキング ヘッド」は、日本語の原稿を用意するだけで翻訳から読み上げまで即座に対応できるクラウド サービスです。発災時に困難を経験したコミュニティー放送局の知見が随所に活かされていますので、広くコミュニティー放送局にご活用いただきたいと思っております。

#### 問合せ先

#### 動画

#### サイト URL

株式会社横浜マリンエフエム 法人番号：7020001127841  
TEL：045-623-9000 FAX：045-624-0861 E-Mail：info@marine-fm.com

—

